

知ったこと、聴いたことは生かさなければ意味が無い

認知症の人の力になる



「大津町」が力になる

平成18年4月、全国の市町村に「地域包括支援センター」が設置されました。地域で暮らす高齢者を介護・福祉・医療・健康など様々な面から総合的に支える機関です。大津町では当初、役場内に「地域包括支援センター」を設置していましたが、平成20年1月21日に、役場前の銀行跡地に地域包括支援センターを開設しました。建物も独立した町直営のセンターは、菊池地域内では初めてです。センターには、相談室が2室あり、安心して相談することができます。建物は、多機能トイレ、オストメイトトイレ（人工肛門対応トイレ）の設置や床の段差を無くするなど、バリアフリーで障害者の人にも利用しやすいようにつくられています。また、自由にお茶を飲んで休憩する場所もあり、だれでも自由に、そして快適に利用できる施設になっています。

さらに、このセンターは、菊池圏域の障害者相談支援センターも併設しており、相談支援専門員が障害関連の相談に対応しています。

※トイレは、センター開設時間内や町で行われているお祭りの時にも、自由に使用できるようにしています。

そして…「あなた」が力になる

認知症サポーターって知っていますか？

厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環で「認知症サポーター100万人キャラバン」が始まりました。認知症サポーター養成講座を行い、受講した人は、全員「認知症サポーター」になり、オレンジ色のリングが渡されます。この「オレンジ・リング」でサポーターであることが一目で分かるようになっていきます。町でも、8月に民生委員・児童委員の皆さんが、9月には、役場職員が「認知症サポーター養成講座」を受講しました。市町村職員を対象に行われるの

は県内では初めてのことでした。

サポーターがつくる夢

認知症サポーターは、特別に何かをやるわけではありません。認知症についての正しい知識を持って、認知症の人と接するだけで良いのです。正しい知識があれば、おのずと正しい行動をすることができるようになります。

下のデータは、熊本県と大津町の人口や65歳以上の人口、高齢化率などから、人口に対する認知症サポーターの割合、1人当たりの担当高齢者率を掲載しています。

メイトとは「キャラバン・メイト」のことで、養成講座の講師になってサポーターを要請する人のことです。大津町では、サポーター1人当たり



何でも、気軽に相談してください。

自由に休憩できます。お茶もありますよ。

左がオストメイトトイレ。安心して使用できます。

1 地域包括支援センターは、なにをやっているところ？
 1 どんな相談でもどうぞ！
 ～総合相談支援業務～
 悩みや相談を受け付け、問題に応じたサービスや制度を教えてください。また、関係機関の紹介も行っています。

2 あなたの権利を守ります
 ～権利擁護業務～
 財産管理や契約などで不安があるときに、「成年後見制度」(*)を紹介しています。また、高齢者虐待などの早期防止に努めます。

3 自立して生活できるように支援します
 ～介護予防ケアマネジメント業務～
 要介護になる可能性が高いと診断された人などを対象に、ストレッチ、栄養改善、歯みがきの訓練などを行っています。また、介護予防プランの作成も行っています。

4 さまざまな方面からあなたを支えます
 ～包括的・継続的ケアマネジメント支援業務～
 地域のケアマネジャーへの指導や助言、相談を行っています。また、ケアマネジャーのネットワークづくりをしています。

5 快適に家で暮らすために
 ～高齢者の在宅福祉サービス～
 デイサービスなどを利用できるかの調査、決定を行っています。

気軽に来てください
 「どこに相談すればいいのだろう？」と迷った時には、まず「大津町地域包括支援センター」を訪ねてみてください。きつと力になることができます。と思います。

そこで! だれでも参加できる認知症サポーター養成講座を行います

○日時 12月1日(月) 午前10時～正午
 ○場所 オークスプラザ ふれあいホール
 ○申し込み・問い合わせ 町地域包括支援センター ☎(292)0770

	総人口	65歳以上人口	高齢化率	メイト数	サポーター数	サポーター1人当たり担当高齢者人口
熊本県	1,852,073	447,248	24.10%	212	5,497	81
うち大津町	29,663	5,714	19.30%	1	72	79

※総人口、65歳以上人口はH19年3月31日 その他は、H20年7月15日のデータです

大津町は、平成22年度に2,300人のサポーターを目指しています!



民生委員児童委員協議会会長
 よしだ のぶひさ
 吉田和信さん

ちょっとしたお手伝いを 民生委員・児童委員でやっていきたい

サポーター養成講座を受けた吉田会長は、認知症に誤解があったと話します。私は、認知症になると「その人の人格が無くなってしまわないか」と間違った認識をしていました。しかし、講座を受けて「一部の能力が悪くなるだけなんだ」ということが分かったんです。それならば、周りの人がその部分を補えることができれば、その人の役に立てるのではないかと。認知症の人が、買い物をしたり、歩いたりしているときに、少しのお手伝いを民生委員・児童委員は行っていきたくて思っています。そして、地域の人たちに、認知症についての正しい知識を伝えていきたくて思っています。



キャラバン・メイト
 mitsuhashi misako
 坂野美佐子さん

人の幸せは、自分の幸せ
 町で唯一のキャラバン・メイトである坂野さん、認知症にかけるその思いは以前から認知症の勉強をしていて、私にできることがあれば…と思いキャラバン・メイトになることを決めました。「人が幸せになれば自分も幸せになる」と思っていますから。私は、認知症の人たちだけでなく、高齢者全員を応援したいと思っています。夢は、大津町の皆さん全員が、高齢者を見守っていくことです。今後は、子どもに分かりやすい講習を行いたいですね。未来は子どもたちのものですから。地域全体で高齢者を見守ることは、未来のことも考えないといけないと思っていますから。

※成年後見制度とは、財産管理や契約などの場合に適切な判断をすることが難しくなった高齢者の皆さんを支援する制度です。